

# Uターンの先輩に学ぶ 祝島・橋本農園を訪ねて

今回は、14年前（平成11年）に祝島にUターンされて、ミカンやビワの農園を経営されている橋本和光（はしもとかずみ）さん（74歳）にお話を伺いました。

## ◎橋本さんのプロフィール

橋本さんは昭和13年に祝島で生まれ、中学校を卒業されるまで島で育ちました。周防大島の柑橘試験場栽培研究室に長年勤務され、その後、農業改良普及員としても活躍されました。柑橘試験場に勤務されていた時に橋本さんが中心になって作り出した新品種「せとみ」は、現在「ゆめほっぺ」という商品名で、山口県の特産品として県内の多くのミカン農家で栽培されています。

農業の専門家として、早くから「県内では、祝島がミカンとビワの栽培の最適地」との想いがあり、「退職後は祝島でミカンとビワの栽培をしよう」と決めておられたそうです。予定通り定年退職後すぐに島にUターンして、ビワ、ミカン、中晩柑（いよかん、ポンカン、せとみ）、桃、ブドウなどを栽培し、年間を通して果実を出荷（周年栽培）して、コストダウンに収入を得られるような仕組みを実現されています。現在、橋本さんの作られた果実は、島内の商店、上関町の特産品センター、柳



インタビューに丁寧に答える橋本さん

井市のJA直売所『遊気百菜』で販売されている他、個人の消費者への直販も口コミで広がっているそうです。

## 橋本さんのUターン成功の力には、

《農業技術者としての知識》はもちろんですが、《綿密な計画》と《周到な準備》、そして《日々の努力》がそれを支えていると強く感じました。橋本さんのノウハウは、農業に限らず、これから上関町にUターンして、何かを始めたいと考えている人に大いに役立つものだと思います。

## ◎10年前から準備を開始

橋本さんは、定年退職される10年前から、毎週のように休日には祝島に戻り、コツコツと畑の整備をしてこられたそうです。「交通費もかかったが、将来への投資と考えて、毎週戻ってきた。おかげで、Uターンしてすぐに仕事を軌道に乗せることができた。」と話されていました。

## ◎高齢になってもミカン作りができる仕組みを考える

橋本さんは、将来自分が高齢になっても、無理なく農園の経営ができるように、Uターンされる3年前には、次のような「高齢者ミカン作り10ヶ条」を考え出し、実行されています。



ビワの栽培には祝島が最適地です

## 「高齢者ミカン作り10ヶ条」

- ① 適正面積で作る。  
（体力に見合った面積、適地、作業性等を考慮する）
- ② 集約栽培をする。  
（コツコツ根気よく、手作りで）
- ③ 品種系統の組み合わせを考える。  
（極早生、中生、晩生、晩柑）
- ④ 大玉の品種系統を作る。  
（摘果労働、採取運搬労働の省力化、選別が楽）
- ⑤ 連年結果する品種系統を作る。  
（極早生、在来普通温州、古田温州、いよかん、ポンカン等）
- ⑥ 全国的な裏年に自分の園を表年にする。  
（表年に思い切って全摘果する）
- ⑦ 裏年に高接か苗木定植して、3年目の裏年に結果を開始する。
- ⑧ 出荷運搬は依頼する。  
（軽トラ償却費で）
- ⑨ 作りやすい樹にする。  
（若木（幼木）、樹形の小型化）
- ⑩ 老人パワーでミカンを作る。  
（年金、生きがい、元氣老人、経験・長寿技術、コツコツ努力する、あせらず余裕をもって作る）

現在、橋本さんはこの10ヶ条に従って、自分の体力に合わせて、無理せず長く続けられるように、畑の面積や栽培する品種数を限定し、収穫した果実の運搬も楽にできるように工夫されているとのこと。

## ◎計画を立てる

橋本さんは10年計画、5年計画、1年計画、毎週計画と、長期の計画から短期の計画までしっかりと立てて、それを実行して

おられるそうです。見せていただいた手帳には、毎日の実行すべき項目がギッシリと書き込まれていました。

そして「仕事は、《段取り》が肝心。それには細かい計画が必要。」と話されていました。



鈴なりに実った橋本農園のミカン

## ◎毎日コツコツ努力

橋本さんは、一年のうち三百日は畑で働いておられるそうです。「雨の日が休日」と言われていますが、雨の日も自宅パソコンを使って、商品ラベルを作ったり、販売の案内状を作ったりされているそうです。

NHKの天気予報は毎日欠かさずにチェックして、天候によって仕事の内容を調整されたり、作業日誌を毎日細かくつけられたりと、日々の努力を積み重ねておられます。

## ◎これからの計画は？

現在、橋本農園では、10月から2月にかけてミカンなど柑橘類の収穫と出荷、5月～6月がビワ、7月が桃、9月がブドウの出荷と、ほぼ一年を通して果実の出荷ができるようになっていますが、「今よりもっと楽に周年栽培ができるように、栽培する品種を徐々に変えるなどの工夫をしていきたい」とのことです。

どうやら、橋本さんの農業に対する熱い想いは一生続きそうです。

※橋本農園 TEL & FAX (0820) 66-2610

◎「わいわいタイムス」3月号は3月3日（日）発行予定です。

